

2023年3月期 第3四半期決算

2023年1月30日

 大同特殊鋼株式会社 (5471)

2022年度 第3四半期決算 (2022年4月～2022年12月)

 大同特殊鋼株式会社 (5471)

■ 22年第3四半期決算の概要

- ▶自動車減産の長期化により、全体の売上数量は減少。
半導体関連、電気電子関係は足元で一部在庫調整あり。
- ▶他方、原材料・エネルギー価格高騰に対して、販売価格の是正に取り組んだことにより売上高は増加。
- ▶自由鍛造品やステンレス鋼を中心に内容構成は大きく改善。

	2021年 第3四半期実績			2022年 第3四半期実績			前年差	
	上期	10-12	合計	上期	10-12	合計	うち10-12	合計
鋼材売上数量	634	317	951	540	296	836	-21	-115
売上高	2,552	1,353	3,905	2,819	1,528	4,347	175	442
営業利益	192	97	289	232	145	377	48	88
経常利益	206	106	312	241	150	391	44	79
特別損益	▲ 4	31	27	▲ 4	▲ 1	▲ 5	-32	-32
法人税他	▲ 74	▲ 43	▲ 117	▲ 54	▲ 50	▲ 104	-7	13
親会社株主に帰属する 当期純利益	128	94	222	183	99	282	5	60

(千t・億円)

■ セグメント別売上高・営業利益(前年同期差)

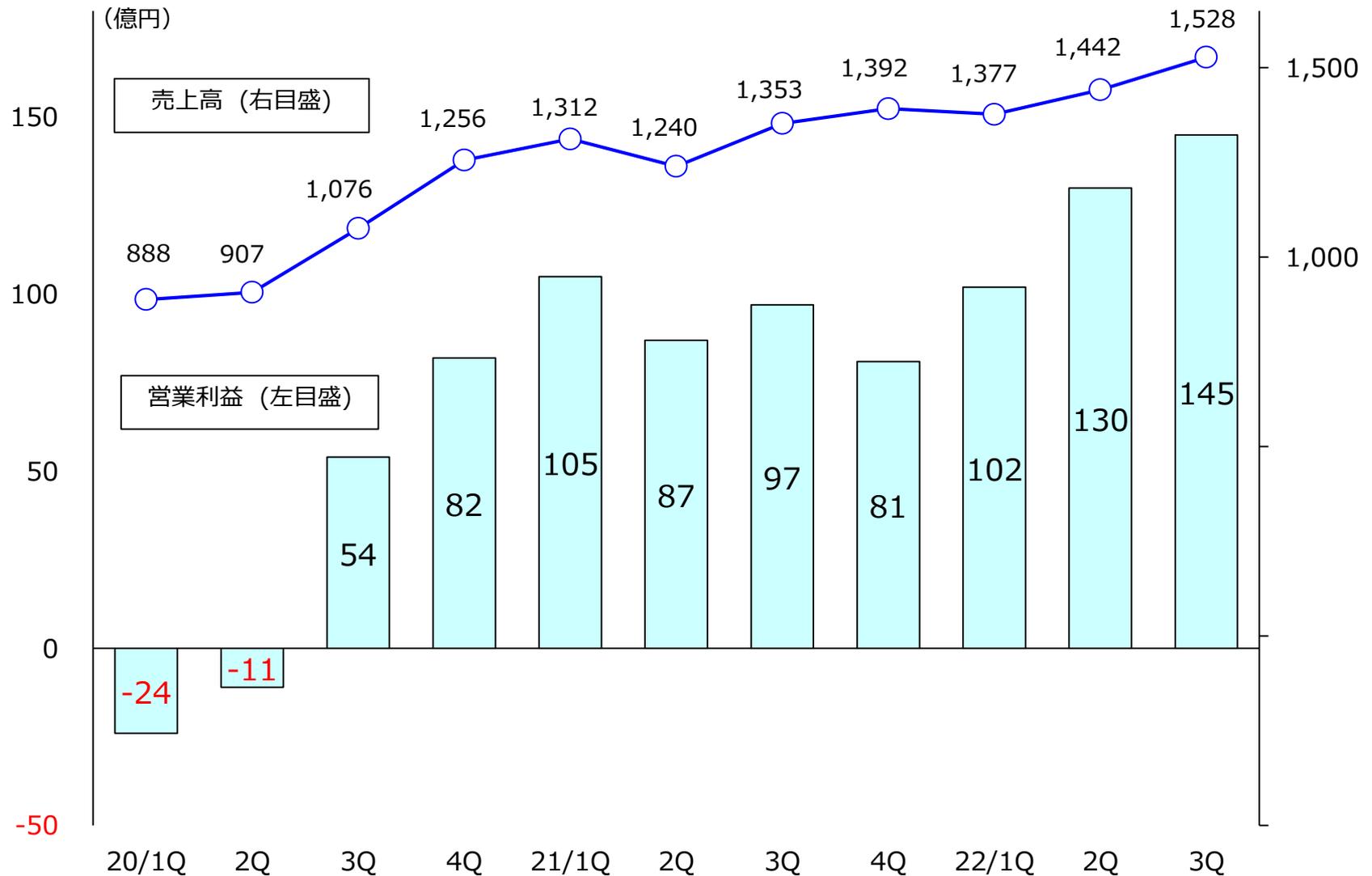
(億円)

	2021年度実績		2022年度実績								前年差	
	第3四半期		1Q		2Q		3Q		第3四半期		前年差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	1,449	22	506	1	522	41	594	43	1,622	85	173	63
機能材料・ 磁性材料	1,460	211	544	75	552	59	577	67	1,673	201	213	-10
自動車部品・ 産業機械部品	694	43	238	18	257	16	257	25	752	59	58	16
エンジニアリング	131	▲ 10	38	▲ 1	45	5	52	3	135	7	4	17
流通・サービス	171	23	51	9	66	9	48	7	165	25	-6	2
合計	3,905	289	1,377	102	1,442	130	1,528	145	4,347	377	442	88

(千t)

鋼材売上数量 (単体)	951	280	260	296	836	-115
----------------	-----	-----	-----	-----	-----	------

■ 四半期別売上高・営業利益推移



■ 原材料価格

新断(千円/t)



H2(千円/t)



原油トバイ(\$/B)



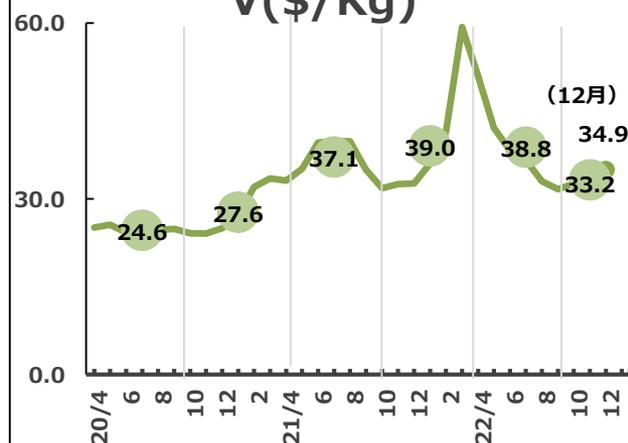
NI(\$/Lb)



Mo(\$/Lb)



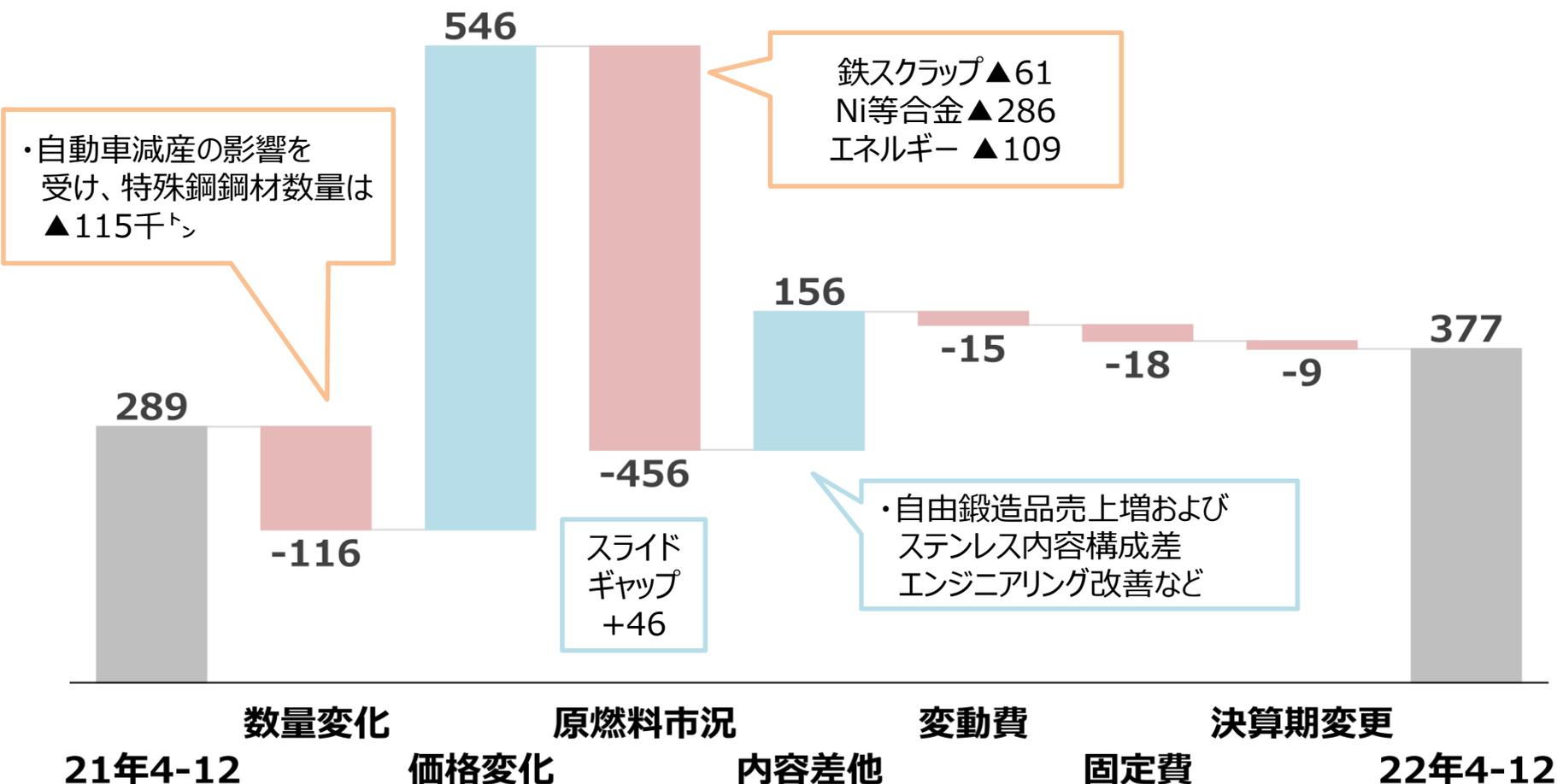
V(\$/Kg)



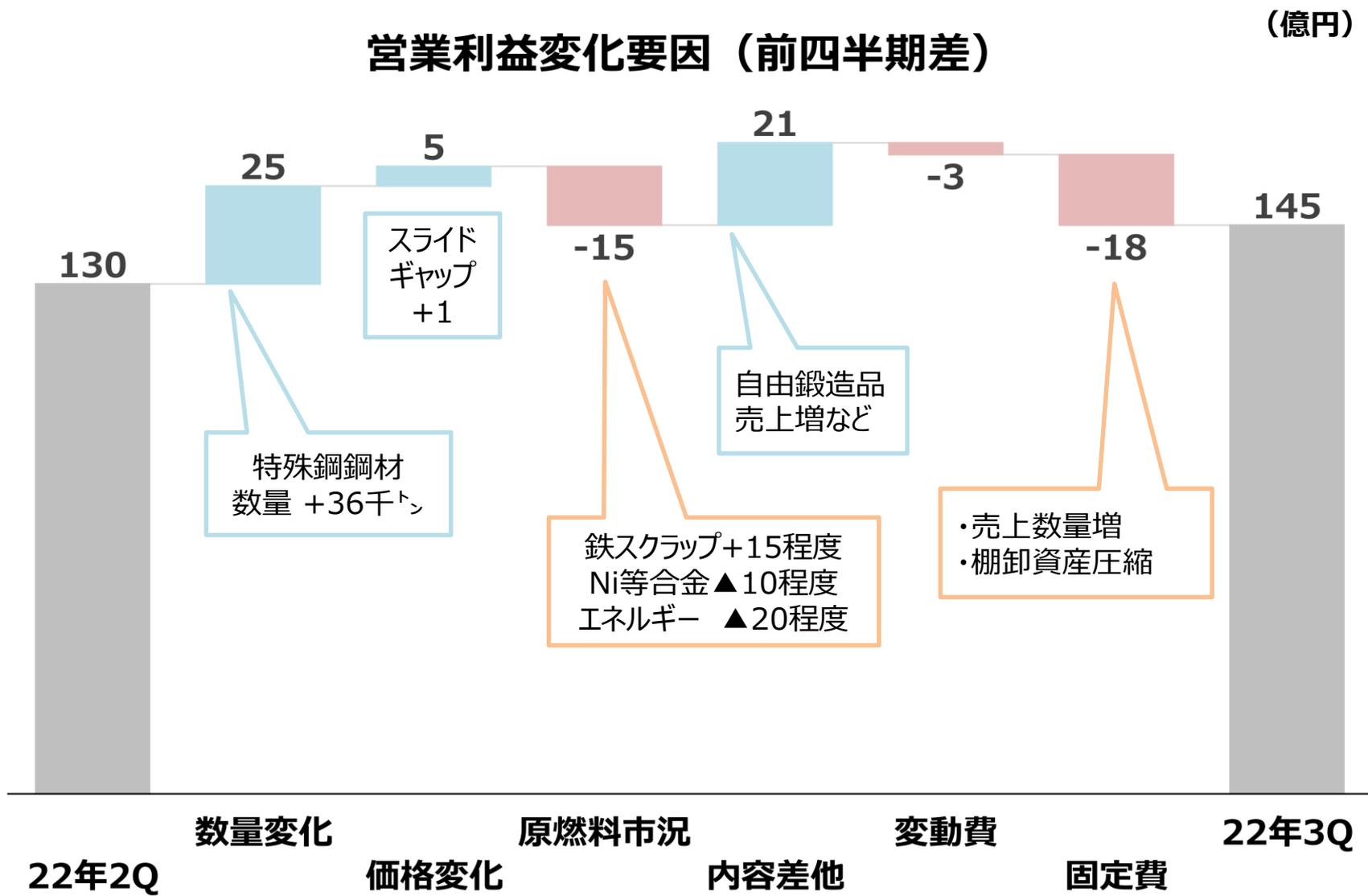
22年4-12 営業利益の変化要因(前年同期差)

(億円)

営業利益変化要因 (前年同期差)



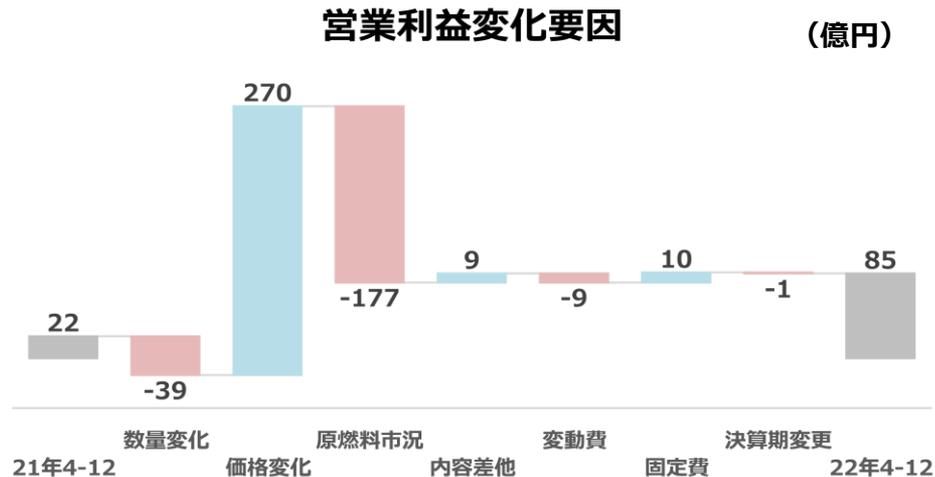
22年3Q 営業利益の変化要因(2Q差)



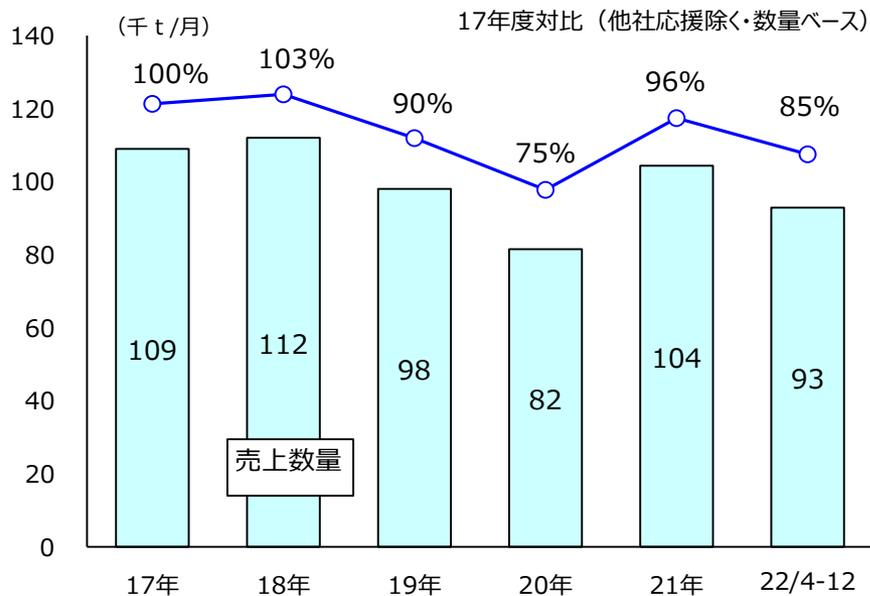
■ 特殊鋼鋼材概況

(億円)

	21年度		22年度		前年差	
	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計
	a	b	c	d	c-a	d-b
売上高	517	1,449	594	1,622	77	173
営業利益	7	22	43	85	36	63
スライドギャップ	-7	-40	7	6	14	46



鋼材売上数量(単体)



POINT 1

自動車減産継続により数量減も、鉄屑スライドギャップの縮小、固定費減などにより、営業利益は85億円となった。

POINT 2

エネルギーコストなどのベース価格改善は計画通り進捗。

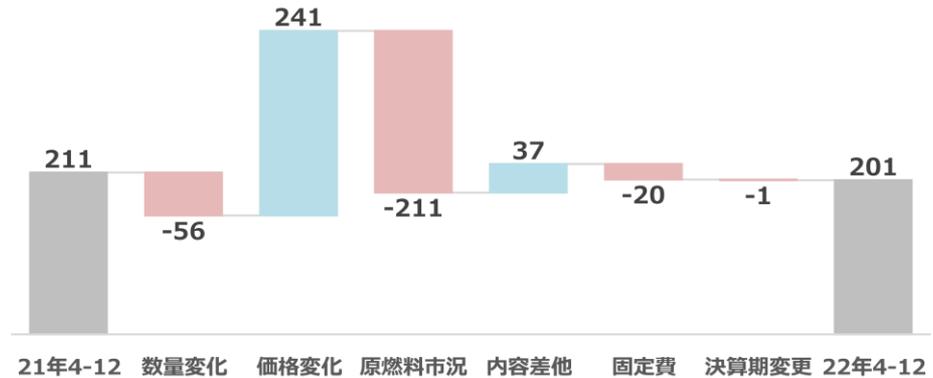
機能材料・磁性材料概況

(億円)

	21年度		22年度		前年差	
	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計
	a	b	c	d	c-a	d-b
売上高	512	1,460	577	1,673	65	213
営業利益	72	211	67	201	-5	-10

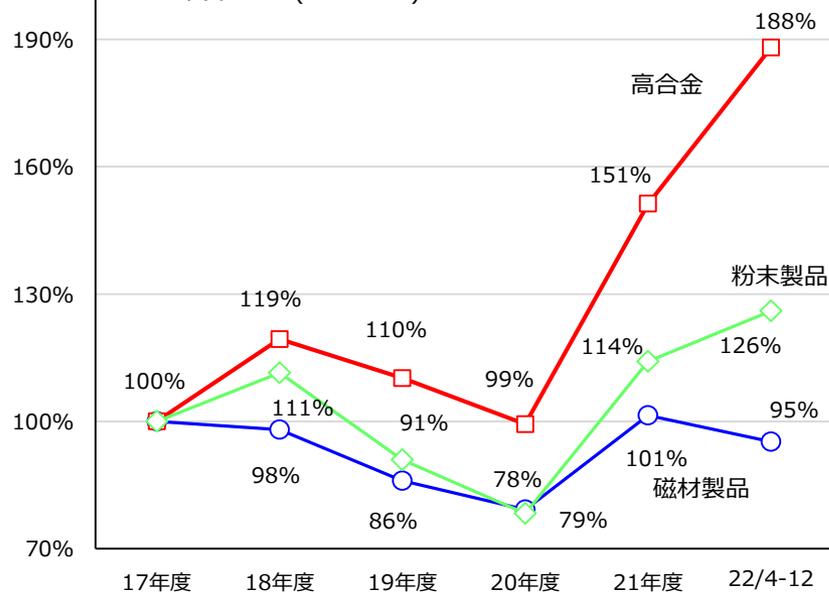
営業利益変化要因

(億円)



<高合金・磁材製品・粉末製品 (売上高)>

<17年度 = 100(金額ベース)>



POINT 1

自動車向けの減少に加え、足元では一部在庫調整の動きがあり、ステンレスの出荷数量は減少。

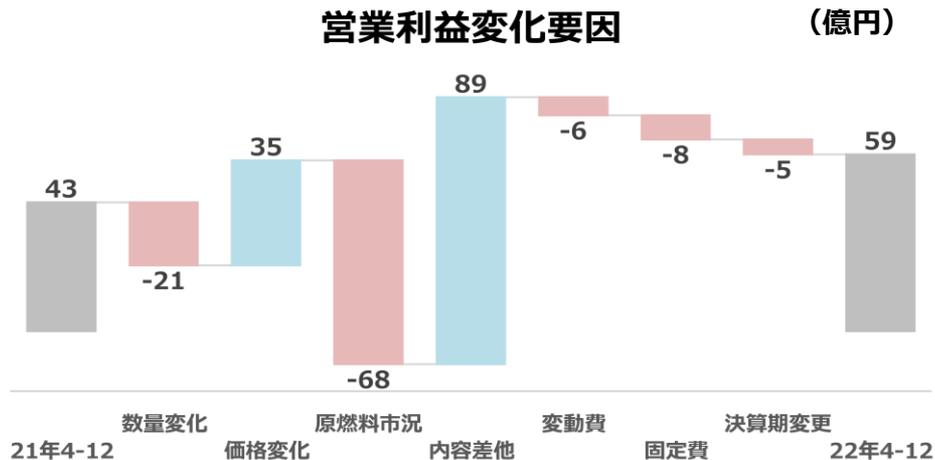
POINT 2

ただし、半導体製造装置向けの数量が伸長したことなどにより内容構成は良化。ニッケル高騰によるコスト増は販売価格に反映し、営業利益は201億円となった。

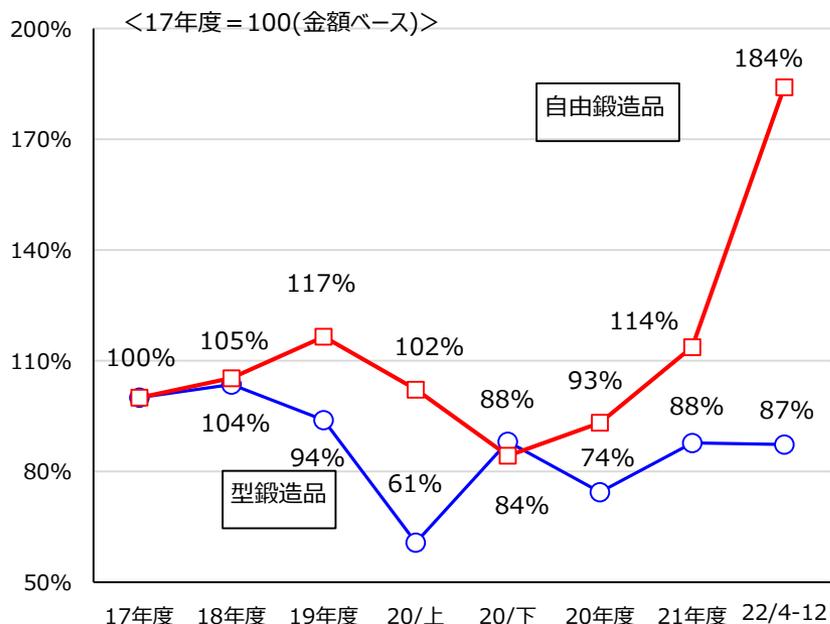
自動車部品・産業機械部品概況

(億円)

	21年度		22年度		前年差	
	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計	うち3Q	4-12計
	a	b	c	d	c-a	d-b
売上高	229	694	257	752	28	58
営業利益	12	43	25	59	13	16



<型鍛造品・自由鍛造品 (売上高)>



POINT 1

型鍛造品などの自動車部品は数量減も、自由鍛造品でエネルギー関連、環境対応製品の需要が堅調に推移し、営業利益は59億円となった。

POINT 2

自由鍛造品は重電需要、船用バルブの需要旺盛。航空機関連も回復基調。

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。